

# 名古屋の古道・街道

池田 誠一

## 【16】高針街道…星が丘から高針へ

### 1 中馬の道

江戸時代、信州と他の国との物流は「中馬」と呼ばれる馬での輸送が中心になっていました。中馬とは、江戸時代の初めに信州の農民が農閑期の駄賃稼ぎに馬を活用したもので、目的地まで通して輸送することに特徴がありました。このことは宿場の問屋を経由するという伝馬制度に反するため、いろいろトラブルがありました。しかし1764年には信濃のものが正式に中馬として幕府に認められ、少し遅れて三河、尾張も認可されました。こちらは馬稼ぎといいました。中馬の語源は定かではありませんが、「賃馬」とか「手馬」、「中継馬」などと説明されています。システムが成長するとともに、馬子1人が4頭の馬を引き4～500<sup>kg</sup>を運んで目的地に直行する効率的なシステムになりました。その数は信州だけで1万8千頭にも及んだといえます。

中馬の通る道は、伝馬制度のある街道を避けることによって独特の中馬街道が形成されてきました。名古屋への道はこちらでは信州飯田街道といわれたいくつかの道でしたが、とりわ

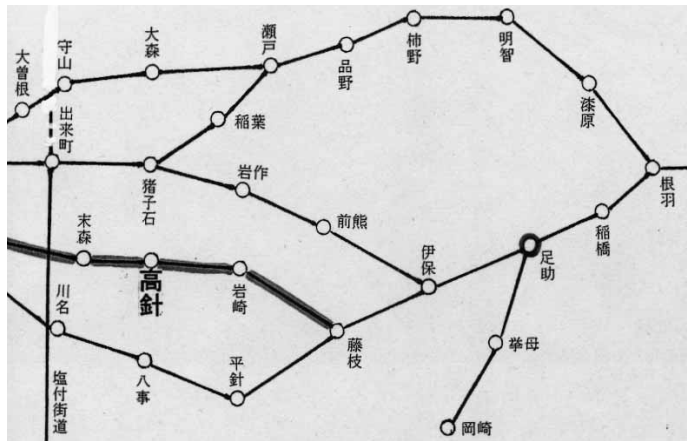


図1 中馬の街道(文献③に加筆)

け中馬輸送の中継基地の足助を経由する道がよく歩かれました。名古屋から足助への近道だった「高針街道」はその代表といえます。(図1)

### 2 中馬の拠点足助へのバイパス…高針街道

#### (1) 東への道

名古屋から今の広小路を東に向かう道は、古くは陶器の道だったのではないのでしょうか。末森や東山にある古窯、それが猿投山麓へと拡大

していく過程でいくつかの道があったと考えられます。また戦国時代には織田信秀が末森城を拠点にし、柴田勝家はその東の下社城、その先には小牧長久手戦の戦場岩崎城があり、東西の往来の道も十分に考えられます。

高針街道はそれらの道と、中馬の拠点足助から名古屋へ

の伊奈(飯田)街道とを短絡するバイパスとして出来たように思えます。足助から名古屋までは1日強かかるため、高針で泊まって名古屋に入る行程だったといえます。

## (2) 高針街道

高針街道は城下の東、善光寺街道の佐野屋の辻(代官町)を東に向かいます。建中寺の前を通過して2回ほど南にわたって池下を通り覚王山に出ます。月見坂では南に、末森では北に幹線道路(広小路の延長)から外れますが、本山からはほぼそれに沿って進み、新池をまわって星が丘に行きます。

星が丘は昔は追分と呼ばれ、高針と一社への道の分岐点でした。右に進み峠を越えて坂を下ると高針です。高針では旧道を東南に進みます。そして岩崎を経て藤枝・米野木の辺りで伊奈街道に合流しました。(図2)



名東本通にある三徳竜神

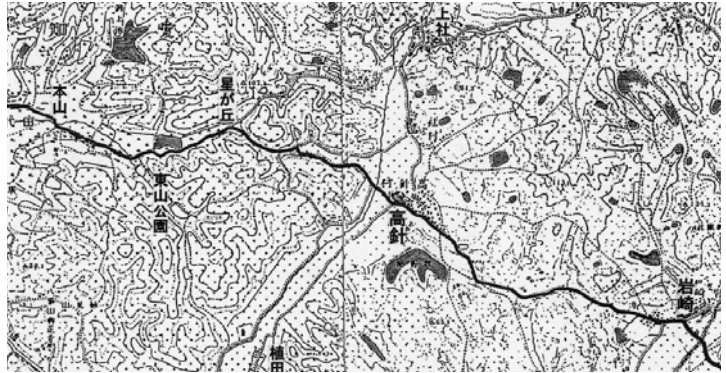


図2 高針街道(本山～岩崎 明治21年)



街道から見る東勝寺

## 3 星が丘から高針へ

高針街道の古い道は所々しか残っていません。印象的なのは高針の辺りなので、星が丘から高針に向かって歩きましょう。

星が丘は今では名古屋の東の副都心といえるくらいに発展しましたが、1世紀前はまだ何も無い所でした。地下鉄の4番出口を出て名東本通に入ります。少し行くと峠になります。昔はここが高針の境でした。下っていく道は4車線の道路で昔の道の面影はありません。

右に西山への道を分け、少し下ると左に道が分かれます。ここには古い地図では池があり、道は左手に進んだところで池を回って右に出ました。そこにあった竜神様が、この辺り唯一の昔を伝えるものとして、通りから少し下がった所にまつられています。さらに下ると緩やかなカーブのあと植田川を渡ります。その先には高速道路ができ、川の姿も大きく変

わってしまいました。道路を渡ると高針の集落です。

\*

高針の旧道へは新道から左折するように入ります。集落に入ると左に東勝寺の大きな屋根が見えます。中世に伝忠坊という天台宗の寺があり、戦国時代になって東勝寺として真宗に改宗されました。門の両脇にある松が見事です。

旧道を進むと左手に白い塀の家があります。ここにはこの辺りで最も最後まで残っていた中馬宿がありました。馬をつなぐ所のある宿で、中馬街道ではよく見られたものです。

次の信号から左に、集落の中に入ってみます。少し上り右手の道を行くと竹やぶの中を右に上る道があります。上ると開けた畑に出ますが、この辺りが城跡で、南や西に展望があります。下に戻って進むと左に大きな緑が目に入ります。



高針の城跡から



蓮教寺を見上げる

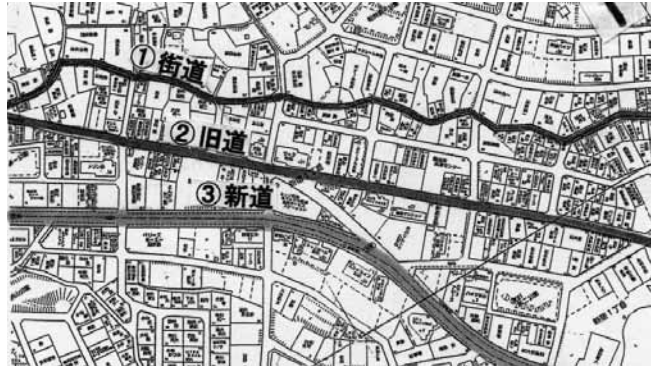


図3 3本の道(①の街道が曲がりくねっている)



左に入る街道(右が旧道)

蓮教寺です。左にいくと長い山門までの階段の向こうに本堂が見えます。この寺も中世からの天台宗の寺で昔は智根坊、誓光坊、泉蔵坊という塔頭がありました。その後変遷を経て戦国時代に真宗に改宗しました。(誓光坊は勢子坊の地名で残っています。)江戸時代からの本堂は今年の秋まで修理中です。左手奥の階段を上ると墓地がありますが、その中に「是従西極楽街道」という石柱が気になります。

寺の前の道を西北にとるとその先には高牟神社、済松寺などがあり、迷路のような道を楽しむこともできます。

\*

信号の所に戻り東に進むと左に入る道があります。ここに入るのが昔の街道です。現在、高針を東西に走る道は3本あるといえます。①江戸時代の街道と②昭和30年頃出来た今の旧道、そして③区画整理で出来た新道です。(図3)

左に入ると道は細く、その上曲がりくねっています。この道は戦前までは集落の南縁を進む道でした。新しい道(旧道)が出来たため

に昔のまま残ったともいえます。くねくね続く道を行くと、バス通の手前1区画は宅地の中に消えています、通りを越えたとまた緩やかに坂を上ります。右に自動車学校がある辺りは高台で、少し下って新道にとびだします。街道はこの後、新道旧道を繰り返しつつ岩崎に出ます。

\*

ここまで来たら、最後に牧野池を見てバスに乗りましょう。新道を西に戻ったバス停から西南に少し入ると大きな池があります。県内で第3位の大きさの牧野池です。この池は江戸時代の初めに、高針の人が水に苦しんでいるのを見て代官の勝野太郎左衛門が長さ250<sup>メートル</sup>、高さ9<sup>メートル</sup>の堤を築いたものです。



昔は牧の池といった牧野池

## 4 高針への道の盛衰

江戸時代に栄えた中馬の道は明治になっても続きましたが、明治40年代に国鉄の中央本線が開業するとともに急速にその意義を失っていきました。

ところが高針への街道は、新しい局面を迎えてまた栄えることになったのです。それは明治30年に始まる亜炭鉱です。亜炭は戦前では主要燃料であり、加えて高針辺りの亜炭は完全燃焼したとかで全国でもトップクラスの品質とされました。このため急速に産業化し、最盛期の正から昭和の初めには、街道を行くのは中馬から馬車に変わりました。亜炭馬車が列をなして「黒街道」と呼ばれたといえます。

そして昭和34年編纂の猪高村誌では、西山の団地、高針橋の永久橋化、新道の開通、梅森のゴルフ場や市営住宅の建設等を列記しつつ、これから開けるのは高針だろうと期待しました。

しかしその30年代、東名高速のインターが上社に、地下鉄の1号線も上社方面に延長が決まりました。方向は上社への道になったのです。それから40年、今では広小路に続く道が高針街道であることを知る人は少なくなってしまう。

のどけさや 中馬の道の 跡を追い

〈主な参考文献〉

- ①宮本常一「塩の道」(1985, 講談社)
- ②猪高村誌編纂委員会「猪高村誌」(1959, 同委員会)
- ③小林元「猪高村物語」(1988, 著者)



街道の細い道



右手が自動車学校